

# 願成寺報

平成二十七年九月十五日

〒四四〇・〇八二二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

## ■ 秋季彼岸・永代経のご案内

今このままを慶ぶことが 仏様への報恩です  
そのままの慶びを ご一緒に 見つめ直しましょう

## ○ 餅つき・草取り会

恒例になりました。  
春き立てのお餅をオヤツにします。  
楽しい会になっています。  
仲間が増えればもっと楽しい！  
是非、ご参加下さい。



お餅つき  
雨にも負けず  
頑張りました



九月 二十一日(木) 午前十時 餅つき・草取り会

二十二日(金) 午後一時半 法要のみ

二十三日(祝) 午前十時 法要・法話

正午 お斎(昼食)

午後一時 法要・法話

浄泉寺(岡崎市)

住職 戸田恵信 師

## 毛虫

ドイツニアランドでミッキーマウスが近づいてきた時、腰を抜かして逃げる事も出来ず、大きな声で叫ぶ事も叶わない、やっと小さく「あっち行って」と震えていた人を知っています。訊けば、幼い頃から着ぐるみが怖いのだとか：  
ミッキーマウスもきつと驚いたことでしょうか。

ごめんごめん：て、この人、何しに来たんだろう：

庭の大切な樹木を枯らすし、近づくだけで身体は痒くなるし、見た目にも気持ちの悪い、大繁殖する毛虫が苦手です。

と云うよりも、怖くて仕方がありません。

恐るおそる殺虫剤をかけると、身悶えて苦しそうです。

気持ち悪くて怖いのに、罪悪感でいっぱいになります。

次に生まれるなら、毛虫のいない世界がいいと思います。

阿弥陀経の浄土は、七重の垣根に囲まれた安心の世界です。

鳥が歌い、樹木は花びらを美しく散らしています。

池の蓮はそれぞれの色を反射し、光輝いているそうです。

そんな美しい世界に、毛虫はいないのだろうか：

お経にはありませんが、毛虫も毛虫として輝いている筈です。

毛虫同士は争いませぬ、仲良く並んで葉を食みます。

また、写真で見るとなかなか愛嬌のある顔をしています。

毛虫に輝きを見ないのは、私の観方の問題でした。

修行が足りない反省すべし。でもやっぱり怖い、誰か助けて。

智慧ノ光明ハカリナシ 有量ノ諸相コトゴトク

光暁カブラヌモノハナシ 真実明ニ帰命セヨ

《讚阿弥陀仏偈和讚・親鸞聖人》

## ● 正信偈ノート⑮・竜樹章Ⅲ

書き直しを恐れず、今、思い浮かぶところを書き留める

憶念弥陀仏本願 自然即時入必定

黄色の勤行本の

唯能常称如来号 応報大悲弘誓恩

二十八ページから

弥陀仏の本願を憶念すれば、自然に即の時、必定に入る。

ただよく、常に如来の号を称して、

大悲弘誓の恩を報ずべしといえり。

・本願

弥陀仏の場合、迷いのない私の国土に生れて欲しい、生れるまで見放さないとの誓願。  
(注筆者)

・憶念

浅はかなはからいで仏に背き続ける我と、仏の我への功德を想うこと。  
(注筆者)

・自然

じたばた煩う心が廢れた所に、自ずからそのようになること。  
(注筆者)

・必定

弥陀の浄土に生れる身と定まること。  
(注筆者)

・報恩

恩に報いる(知る)。  
(注筆者)

・奇跡としての我が身

ビッグバン以来約140億年を経て、半径140億光年を超える広大な宇宙の、ほんの小さな塊の上に80年程度を寿命として生れた小さな生物がいて、私はそれを私だと思っている。多分奇跡的な偶然が重なって、石器時代でも戦国時代でもない平成の現在を、五十五歳で暮らしており、まあまあ元気で坊さんをやっている。父を亡くし、母・妻・息子がおり、犬と亀を飼っている。

奇跡的な偶然が重なってそうあるのだから、私自身も取り巻く世界も、ダイヤモンドのように輝いていていい筈だと思う。

・地獄を創り出す我

そんな私について、選んでそうだったという部分も無くはない

が、はるかに小さい。大部分については、たまたまそうになっていたとしか思えない。

「お互い奇跡的なご縁でこうしてある訳だが、君は満足か？」  
小さな水槽の孤独な亀に問いかけてみる。答えは得られないが、代わって欲しいと思っているに違いない。少なくともこの亀より私の方が自由だと思われる。けれど私は私で、もつと自由な人を知っているし「全然思い通りでない」と感じている。問題は波のように押し寄せて来るし、苦しくて堪らない、できれば逃げ出したいと思っている。「人間も相当辛いぞ」と亀に打ち明ける。

この中途半端で小さな自由で何をすれば良いのだろうか…

・世界の再発見

思い通りの結果を思い描くことをはからいと呼ぶ。結果をあてにするから裏切られるのではなかったか。はからいが迷いを呼び、失望が煩いとなる。もし、この煩いが私だけのものであるなら嘆くしかない。けれどもし、他の人の上にもこの煩いを見るのであれば、越えていこうと思う。超えた人に学び、煩いと共に生きる私になっていこう。拍手はされなくてもその姿にはきつと意味がある筈だ。その意味が感じられたら、世界は輝きを取り戻すに違いない。

煩う姿のまま、念仏申す人々の確かな歩みの行列に、ついで行こうと思えます。



## 創作・シツダールタの廻心

沙門は尼連禪河の緩やかな流れにも足を取られながら、六年間の苦行のことを思っていました。

これ以上の苦行は肉体を減ぼすだけだ。

それを代償として魂の自由を得たとして、

その自由にどんな意味があるだろう。

老病死、すべては苦により無に帰す。

苦行林のどの達人も、この虚しさから離れた者はなかった。

久しぶりの沐浴に痩せ細った身体を洗い、

村娘から供養された乳粥を乾いた身体に流し込んだ時、

心地よく響き先を導く声を聞いた気がします。

乳粥の魂が私に宿り、私の魂も新しく生まれ直した。

肉体と同じように、魂も常に死に新しく生まれ直していたのだ。

私と呼べる不変で固有の、輪廻する魂などもとなかった。

すべては縁によって成り立っている。

その縁によって世界とつながっている。世界の一部としての私。

後に菩提樹と呼ばれる樹の下に座り、そのことを確かめます。

何故苦を厭うのか、苦を縁として出会える世界を慶べないか？

一切皆苦から逃れた者はない。

苦を原理とすればより広い世界と繋がるのではないか？

肉体が減びても世界は残る、虚しさの根柢は何処にあるのか？

既に私の身を煩わせ、心を悩ますものはなくなった。

尼連禪河は川面を金色に輝かせて流れ、

ブツダの誕生を祝福したということだ。



## 【漢字】たのむ／たすける／すくう

意味のある文字・漢字は面白い（参考「新漢語林」電子版）

### ・たのむ（囑怙恃頼馮憑）

囑む 従いつくの意。口で言って人を従わせる、言いつける。

怙む 心が固まるの意。人への期待が固まり、たのむの意。

恃む 心待ちにした状態、たのむ。

頼む 幸いや利益を得ることをたのむ。利益資産にまかせる。

憑む すがる、拠り所とする。よりかかる、もたれる。

身を任せる、乗る、宿る、住む。

\* 仏をたのむ場合、この文字に落ち着くようです。

### ・たすける（丞介佐佑侑助尚幫弼扶援毘相祐翼資輔…）

介ける 鎧に入った人の象形で、鎧・区切る・仲立ちしたすける。

翼ける かばう、まもる。脇から両手でたすける。

資ける 金品を与えて助ける。

賛ける 神に供え物をすすめて、まみえる・つげる・たたえる。

輔ける 車の補強材、力をそえるの意。

助ける 力を上に重ねてたすけるの意を表す。

援ける 手を付し、引き上げる。

丞ける 穴に落ちた人を両手で助け上げる様を表現。

### ・すくう（匡拯救済）

匡う 在り方をただして助ける。

救う 力や物資を集め、貸して助ける。

済う おわる、決着がつく。川をすすむ、渡すの意あり。

貧困や障害をわたり過ぎさせて助ける。

水に沈もうとする人を助け上げる。

\* 衆生を溺れる水ごと掬い取る仏の働きを表すのは

行事予定 平成二十七年

九月二十三日(水・祝) 秋季彼岸・永代経法会(戸田恵信師)

お馴染みの先生の情熱的な法話です  
お非時(昼食)あり  
午前十時

十一月三日(火・祝) 本山納骨堂法会・団体参拝

左記参照

十二月五日(土) 報恩講

御開山聖人御恩に報いる法会です

お非時(昼食)あり

五日 午後一時半から

六日 午前十時から

毎月(十一月はお休み) 月例会

第一火曜日 午後一時半

本山納骨堂法会・団体参拝のご案内

市内・近郊のご寺院様と貸切バスにて日帰り参拝します



■期日 平成二十七年十一月三日(火・文化の日)

■日程 六時三〇分 寺・豊橋駅集合

十時〇〇分 本山着 【参拝・昼食】

十五時〇〇分 おちよぼ稲荷 【観光・買物】

十八時〇〇分 豊橋着(予定)

■会費 八、五〇〇円 バス・昼夕食・旅行保険代他

■納骨 納骨の方は一霊につき二万円必要(納骨冥加金)

■申込 願成寺までご連絡下さい(十月十八日まで)

■他 ご不明な点は寺までお問い合わせ下さい

後記

○身近な所にゴミ屋敷があります。そのゴミはきつとバリアなのだ  
と思います。相続など、自分を傷つける問題が侵入してくるのを  
防いでいるようです。しかし問題から眼を背けている間、安心は  
得られず、バリアはどんどん厚くなってしまいます。  
外から見ると、そのゴミは痛々しく「こんな私を赦して下さい」  
と叫んでいるようです。

○多くのものを抱え込んで安心しようとはしますが、逆に不安を煽る  
ことがあるようです。

○新しい生活を選び取るためには選り捨てることから始めます。  
しかし、捨てる・手放すは案外難しいと気づきます。

○息子があれもこれもと沢山の本を抱えて学校に行きますが、もの  
にはならないだろうと思います。「これを学ぶぞ」と狙いを定めて  
教室に座らなければ、得るものは少ないと思います。

○問題を抱えて不安な時、それを隠そうと鎧を着たり槍を持ったり  
しますが、そんな誤魔化しでは解決は遠くなる一方です。

○問題から眼を背けず、外にも見せていくことが近道でしょう。  
ほんの少しの勇気があれば、身軽になることが出来る筈です。

○学生時代、四畳半の下宿に小さな冷蔵庫を置いていましたが、い  
つの日か、開かずの冷蔵庫となりました。中にキャベツを入れた  
と思うのですが、思い出せません。ドロドロに溶けていたらどう  
しよう、どんな悪臭が漂うだろう。夜中にウンウン唸っていました。  
だが、電源を切ることも、中を見ることももう出来ませんでした。  
いよいよ引越という時、友人に居て貰って、やっと開けることが  
出来ました。何のことはない製氷板に分厚く霜が凍り付いていた  
だけでした。

○傷つく事を恐れている時、「もともと小さな私」を忘れていきます。  
お念仏申す時、小さな私の小さな不安が大きな安心に包まれます。  
負けても・失敗しても・傷ついても、歩める道が顕われます。